

(表紙)

都市防災事業計画(当初)

千葉県大網白里市

令和7年3月

上段: 変更前[当初、第△回変更](黒字)
下段: 変更後[第○回変更](赤字)

(様式1)整備方針等

整備方針等

【防災まちづくりの現状及び課題】

■大網白里市の概要

本市は、九十九里平野のほぼ中央に位置し、東西約14km、面積約58.08km²、人口は47,980人である。(令和6年4月1日現在)

■防災まちづくりの現状

・大網白里市では、市政に移行(H25.1)する前から、土地の保全と住民の生命、身体及び財産を保護することを目的に「大網白里町地域防災計画」を策定し、小中学校等の耐震化や備蓄倉庫・消防施設を整備する等防災対策を実施してきた。しかしながら東日本大震災を契機に津波対策の抜本的な見直しが必要となり、併せて大きな被害はなかったものの災害対策本部の初動対応や通信連絡の確保、停電時の対策など災害応急活動が円滑に実施できなかったことを踏まえ「大網白里市地域防災計画」(H26.3)の大幅修正を行うとともに、津波対策として「大網白里市津波避難計画」(H27.8)「大網白里市津波避難施設整備計画」(H27.8)を策定したところである。また、平成30年11月に「津波防災地域づくりに関する法律」に基づく浸水想定図を公表したことから、避難場所を新たに追加するため、津波避難計画を令和3年に改訂したところである。

・防災行政無線の移動系通信、消防団簡易デジタル無線、災害時優先携帯電話等の通信機材及び庁舎・公民館の発電装置や新たに備蓄倉庫を整備するほか、津波避難計画で指定した津波避難路沿いにタワー1基、築山1基を整備したほかに、蓄電池式LED誘導灯や誘導標識を設置しているところである。また、津波の浸水予想区域や避難場所等の情報をスマホやパソコンで確認できるようWEB版のハザードマップを作成し、市ホームページ上で公開したところである。そのほか、千葉県において九十九里有料道路の嵩上げを行うとともに陸こう7箇所を整備したところである。

■防災まちづくりの課題

・延宝房総沖地震タイプの地震は、東北地方太平洋沖地震の震源断層域の南側に位置し、誘発される可能性があると指摘され、白里海岸における津波高は5m(中央防災会議H25.12)を想定されている。また、本市は、南海トラフ地震防災対策推進地域、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震防災対策推進地域にも指定されており、本市における津波対策は、喫緊の課題である。

・本市白里海岸は、海拔0～2mの地域が内陸側2～3kmまで広がる平坦な地形で、海岸付近は水産業及び観光業が、その後背地は農業が、盛んな地域で、約8千人が住んでいる。避難路の可能交通容量から、本市では、原則、徒歩等による避難とし、徒歩等による避難が困難な人に限り自動車による避難としたが、液状化等による道路の損壊や電柱等の倒壊による道路阻絶等により、自動車が使用できない場合が想定され、緊急の避難場所を整備する必要がある。

【整備方針】

■発生の可能性がある延宝房総沖地震タイプの地震(津波高5m)の浸水予想区域に居住する避難行動要支援者等が、徒歩等で避難できる津波避難タワーを整備する。

①浸水予想区域の全ての避難行動要支援者が徒歩等で安全な場所(津波避難ビル5棟を含める。)に避難できるように2箇所に津波避難タワーを整備する。

②高台の位置は、津波避難計画で指定した歩行者優先避難路沿いとする。

③それぞれの津波避難タワーの規模は、避難対象地域の避難行動要支援者及びその支援者に、見込まれる将来の避難行動要支援者数及び何らかの事情で緊急に避難せざるを得なくなった人を加味した収容数とする。

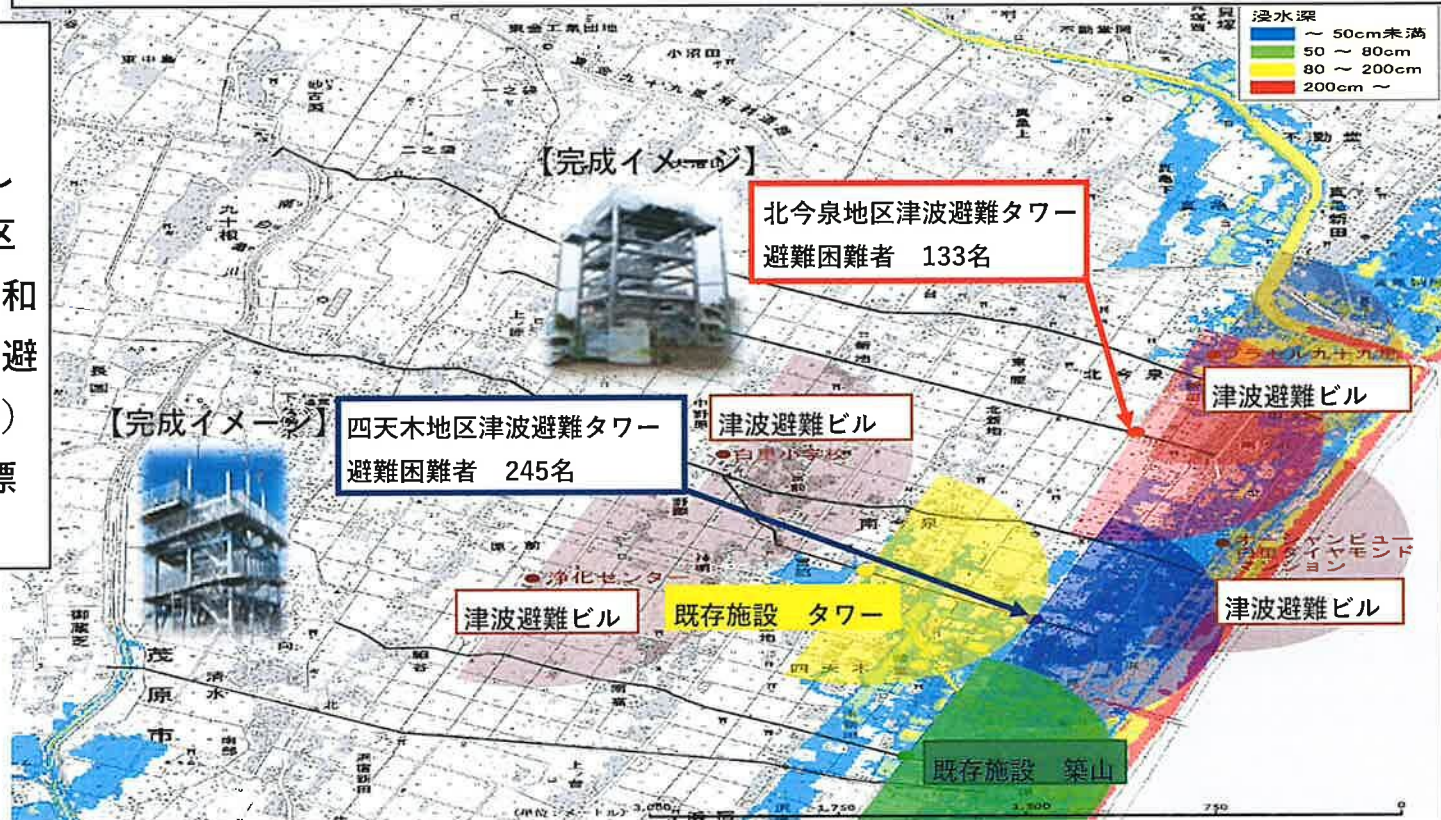
(様式6) 事業概要図(津波避難タワー)

地区名	白里地区(千葉県大網白里市)	面積	17.6	区域	千葉県 大網白里市
-----	----------------	----	------	----	-----------

延宝房総沖地震の想定浸水区域

津波避難タワーの整備

避難困難者の避難先として、令和7年に北今泉地区津波避難タワー1基を、令和8年度から四天木地区津波避難タワー1基を整備(予定)し、避難困難者ゼロを目標とする。



津波避難困難者の解消計画

地区名	地区面積(ha)	避難困難者数(人)	避難困難者解消 目標年度		
			R7	R8	R9
北今泉地区	8.8	133	133		
四天木地区	8.8	245			245
計	17.6	378	133		245

津波避難タワーの整備により、避難困難者378名の解消を図る。

※避難困難者数は、本市の計画では要支援者を想定している